【70】「がわ」と「かわ」

河川の名称は、漢字では〇〇川でもその読み方となると川を「がわ」と呼ぶのか「かわ」と云うのが難問で、こればかりは地元の人に尋ねなければわかりません。著名な河川でも、利根川、木曾川、淀川は「とねがわ」、「きそがわ」、「よどがわ」、と濁りますし、荒川、安倍川、紀の川は「あらかわ」、「あべかわ」、「きのかわ」と濁りません。

また、漢字をみただけでは、どっちかわかりにくい富士川「ふじかわ」、宮川「みやがわ」、旭川「あさひがわ」のような例もあります。一般論でいえば、「がわ」と濁る方が多いようで、一級水系 109 の幹川名でいえば 108（同名が 2 河川あり）のうち「かわ」は 13 河川にすぎません。

私の大失敗は、愛知県の豊川市「とよかわし」で河川の講演をさせて頂いたときのことで、豊川市の中を流れている一級河川「豊川」を当然のこと「とよかわ」と信じこんで、とよかわ、とよかわと連発していたのです。講演会後のパーティで市長さんが、申し訳なさそうに河川の豊川は「とよがわ」と云うのですと教えて下さいました。河川のプロのつもり私顔も顔を赤らめ浅学の身を恥入るばかりでした。

以後、河川名といわず、地名も人命も、漢字だけに頼らないで必ずその土地、その人の読み方を確認するように心がけています。